



○鳥獣被害防止総合対策事業に関するお知らせ

直近で依頼しているものや、今後の予定についてお知らせします。

*事業の進捗によって予定が前後することもあります。ご了承ください。

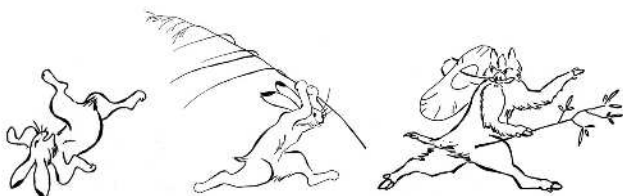
🌸直近で依頼しているもの🌸

- ①令和4年度鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業における捕獲実績
 - ☞第1四半期（4月～6月）における実績を入力してください。
※前年度からの繰越分は記載しないでください
- ②令和4年度鳥獣被害防止総合対策事業（整備事業）の執行状況調査
 - ☞整備事業を実施しているところを対象に契約状況等を調査しています。
※契約が完了するまで月末を期限に毎月調査を実施します

🌸今後の予定について🌸

- ①整備事業
 - ☞9月末までに入札を終えることを目標に進めていただいていると思います。
執行状況調査で進捗を把握しつつ、各協議会の入札残が出そろいましたら、**9月末に追加で事業を実施する地区について検討します。**（それに伴い減額申請等実施する予定。）
※資材高騰が原因で不落が続く場合は、早めにお知らせください。
- ②推進事業・捕獲事業
 - ☞**8月末を目途に執行状況調査を実施します。**余剰と不足のマッチングを図るとともに、国の追加要望量調査（予定）の事前調査とします。

(NS)





○電気刺激はカラスに侵入防止効果あり！

愛知県農業総合試験場 東三河農業研究所(前・環境基盤研究部) 研究員 上田 直人

現在行われているカラス対策は、使用方法が簡便な音やかかし、光を利用した追い払いが行われることが多く、多種多様な商品が販売されています。しかし効果は一時的であり、カラス対策の根本的な解決には至っていません。愛知県農業総合試験場では、イノシシやシカ等の侵入防止対策として広く利用されている電気柵を用い、カラスの被害対策技術として活用できるか検証しました。

1 実験の手順

野外に塩ビ管製の止まり木とプラスチックの餌箱、電気柵用の電源装置を接続した止まり木(以下「通電止まり木」)を、通電スポットに設置しました。また、10m四方の区画を2か所設置し、1か所は塩ビ管で作成した止まり木を設置して対照区とし、もう1か所は通電止まり木を設置し、試験区としました。試験区の通電止まり木はダミーとし、通電はしませんでした(図1)。

まずは、通電スポットのみでカラスをドッグフードで餌付けし、止まり木に乗って餌を食べるようになったら通電しました。

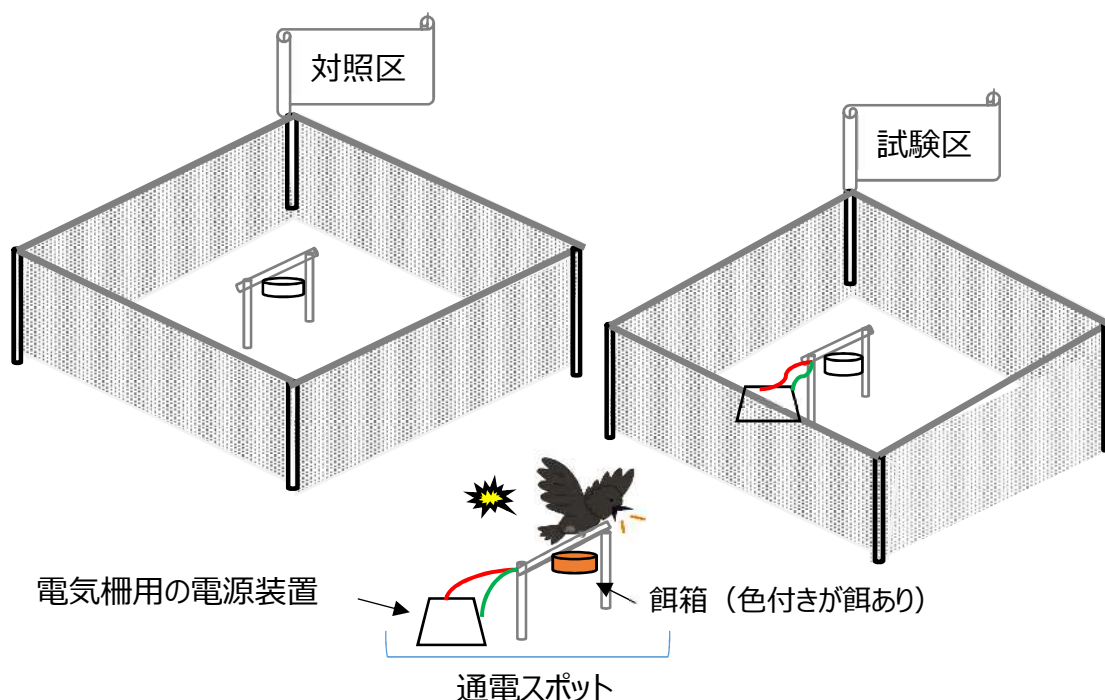
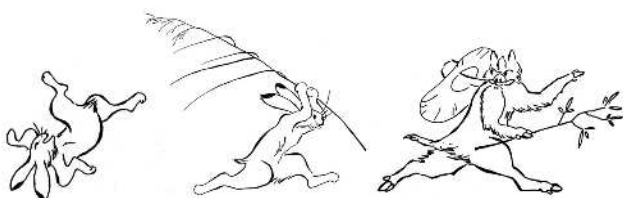


図1 通電スポットでカラスに感電させる時の各機器の配置





カラスの感電を確認したら通電スポットでの餌付けをやめ、試験区と対照区で餌付け（ドッグフード100g）を開始しました（図2）。この時も試験区の通電止まり木はダミーとし、通電しませんでした。この状態での餌付け期間中の餌摂取量と飛来羽数を試験区ごとに調査して比較し、学習効果による侵入防止効果として評価しました。

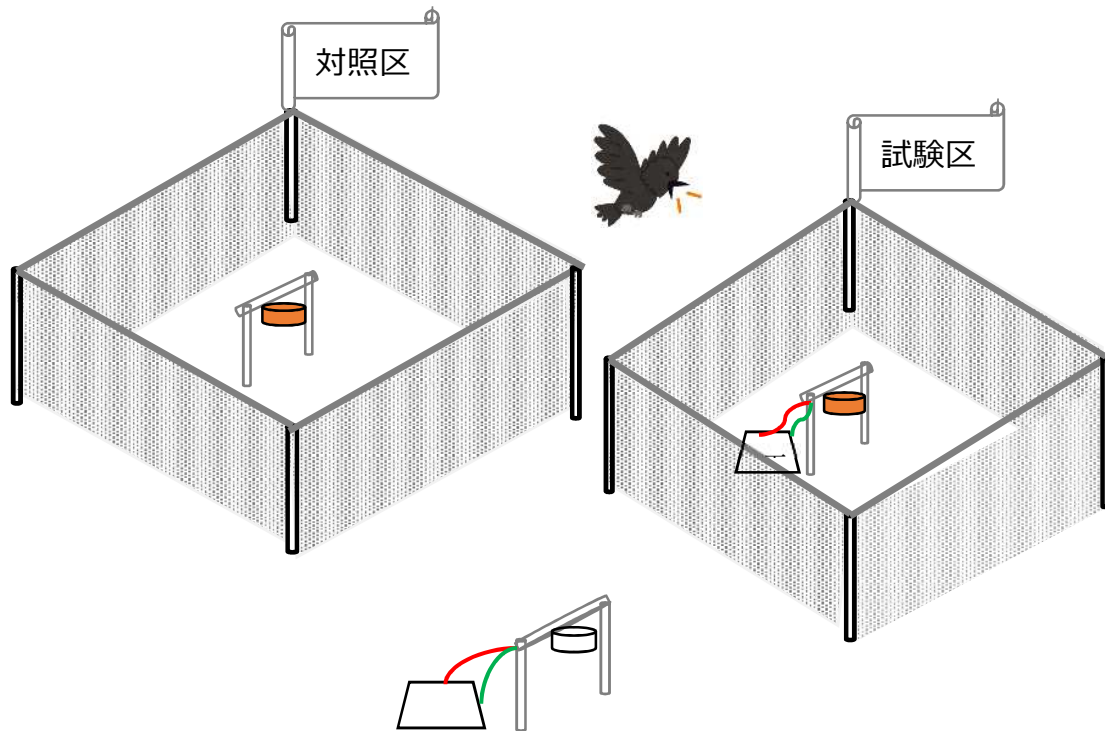


図2 通電スポットでカラスに感電させた後の各機器の配置

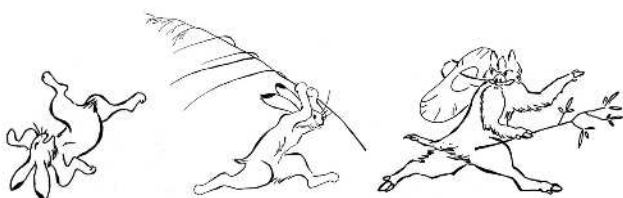
2 実験結果

実験は試験区と対照区の間を入れ替え、かつ時期をずらして2回行いました。実験期間を通じ、通電止まり木は実際には通電していないダミーであるにも関わらず、試験区では対照区と比較して飛来羽数と餌の摂取量が少なくなりました（表1）。通電スポットで感電を経験したカラスに「試験区に飛来するとまた感電するのではないか」という警戒心が生じたためと考えられます。

表1 実験結果：試験区及び対照区におけるカラスの飛来羽数と餌摂取量の比較

	1回目(1/4～15)		2回目(1/18～29)	
	飛来羽数	餌摂取量(g)	飛来羽数	餌摂取量(g)
試験区	6	0	33	100.7
対照区	64	650	102	509.9

※餌は毎日各区100g設置し、1セット（10日間）で合計1000g設置した。





3 被害対策技術として

カラスは賢いことに加えて警戒心が強いことが知られており、いつも侵入する場所に違和感を与えるモノがあれば警戒心を抱きます。今回の実験では、電気刺激による痛みを利用してカラスに「本来は不必要な警戒心」を生じさせたことで、学習効果による侵入防止効果が得られました。ただし、この結果は愛知県農業総合試験場の場内実験によるものであり、果樹園や露地野菜等で活用するまでにはまだまだ検証が必要です。

○鳥獣被害防止総合対策事業 2023 年度の予算編成に向けて

各地域対策協議会等では鳥獣被害防止総合対策事業に取り組まれています。2023 年度の予算編成に向けた作業が始まりました。時期的に大変早く感じられますが、ご対応をお願いします。

1 要望量調査(1回目)での注意点について

県の各農林水産事務所を通じ、要望量を照会しております。1回目の調査では最大限の事業規模を想定し、経費を試算してください。県の予算編成作業の過程において、減額はさほど問題になりませんが、増額は困難です。正確性を追求するあまりギリギリの金額を算定すると、具体的な事業内容の検討段階で増額する必要が生じた場合に対応しづらくなります。

なお要望量は、推進事業、緊急捕獲事業、整備事業のそれぞれについて個別に算定をお願いします。

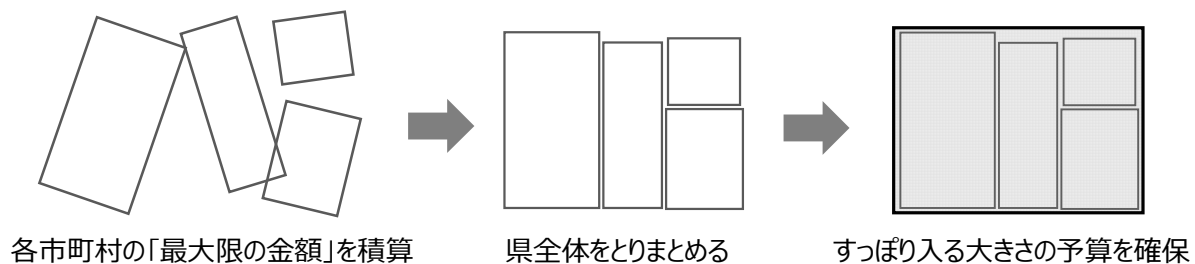


図 県の予算編成のイメージ

2 今後の進め方について

(1) 事業内容を充実させる

予算確保も重要ですが、最も大切なのは当然ながら「内容」です。予算ありきで内容の伴わない事業ほど不毛なものはありません。なので、対策の主役である農業者の声を集め、現場の状況をよく確認して充実した事業計画づくりを目指しましょう。

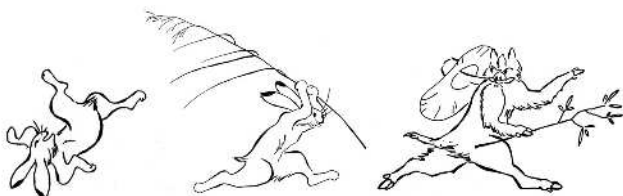
中でも推進事業は、人材育成や生息・被害状況調査など、実に様々な取組を実施することができます。毎年お定まりの「捕獲器具購入」と「狩猟免許取得経費補助」では、せっかくの予算を十分に活用しているとは言えません。新たな活動に挑戦していただけるとさいわいです。

(2) 2023 年度事業計画の策定と国への交付金要望

協議会構成員による検討を経て、2023 年度の事業計画を策定します。国への交付金要望の提出が2月初旬なので、そこから逆算すると1月中旬頃までには計画を固める必要があります。タイムリミットは意外に早く迫ってきます。

(T O)

愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726





○シリーズ 農作物の鳥獣被害対策の基本と課題 第2回 鳥獣被害対策の「三本柱」

6月11日(土)の午後10時からNHK総合テレビで放映された、「NHKスペシャル 獣害を転じて福となす」をご覧になりましたか。鳥根県美郷町を拠点に、鳥獣被害対策のリーダーとして活躍される井上雅央(まさてる)さんを追ったドキュメンタリーでした。井上さんは「集落を餌場にしない」を基本に、地域の活動を指導してこられた先駆者的存在です。今回ご紹介する鳥獣被害対策の「三本柱」も、井上さんが提唱する対策のエッセンスと言うべきものです。

ちなみに、少し驚いたのは、井上さんは心が女性であることでした。地域の人々から雅(まさ)ねえと慕われ、ともに収穫を喜ぶ姿が印象的でした。

☆鳥獣被害対策の「三本柱」とは

以下の三つの取組を適切に組み合わせて実践することです。一言でいえば「寄せない 入れない 捕まえる」です。

- | |
|----------------------------|
| ① 生息環境管理
② 侵入防止
③ 捕獲 |
|----------------------------|

サルやカラスの対策として重要な「追い払い」は、②あるいは①に分類されます。資料によっては、侵入防止を「防御」あるいは「被害防除」、捕獲を「個体数管理」あるいは「生息数管理」と表現している場合がありますが、意味するところは同じです。

いずれも、ハイテク技術を駆使するような特別な対策ではありません。有史以来、脈々と続いてきたであろう人間の営みです。

① 生息環境管理

農地周辺や集落を野生獣にとって都合のよい餌場にしないための対策です。具体例としては休耕地管理(耕うんや刈り払い)、収穫残渣の処分、放任果樹の伐採などが挙げられます。ニホンジカが多いところでは、稲刈り直後に耕うんして“ひこばえ”を発生させないことも効果的とされます。



収穫残渣に集まるカラス

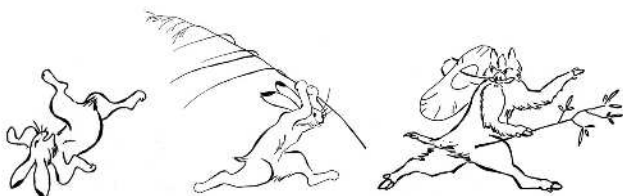
(残渣処分が寄せないための重要な対策)

② 侵入防止

読んで字のごとく、野生鳥獣を侵入させないことです。電気柵、ワイヤーメッシュ柵、防鳥ネットなど、様々な方法があります。問題となる鳥獣の種類に応じ、効果的な方法を選択する必要があります。侵入防止施設を設置しさえすれば100%の効果が持続するものではなく、保守点検と補修が重要です。

③ 捕獲

やはり読んで字のごとく、野生鳥獣を捕まえて駆除することです。野生鳥獣の捕獲は鳥獣保護





管理法で原則的に禁じられていますので、許可を受ける必要があります。

これら「三本柱」の活動は、どれかを単独で実施しても十分な効果は得られません。適切に組み合わせて実施することが大切で、総合的な対策の所以です。

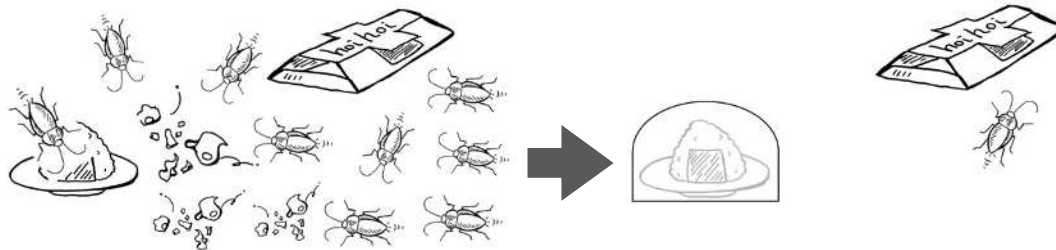
☆「三本柱」は優先順位が大切

「三本柱」は必ず① 生息環境管理 → ② 侵入防止 → ③ 捕獲の順で積み重ねていくことが大切です。なぜならば…

ゴキブリ対策になぞらえて考えてみれば明白です！

掃除を怠ってゴキブリが発生してしまい、大切なおむすびがピンチの時、どうすればいいでしょうか。つい「掃除は面倒だな、粘着トラップを置いて捕まえよう！」と考えがちですが、必ず後悔します。

おむすびを守り抜いて無事にありつくためには、まずは掃除してなるべくゴキブリが寄らないようにし、次におむすびを守る対策を行う必要があります。最も重要なことは掃除してきれいに保つことで、粘着トラップでの捕獲は最後の仕上げです。



掃除を怠り、おむすびを守らず、
捕獲だけを実施してもうまくいかない。

周囲をきれいに掃除し、おむすびを守り、
最後の仕上げに捕獲してこそ、うまくいく。

鳥獣被害対策においても、つい「猟友会に頼んで捕まえてくれん」になりがちかも知れませんが、残念ながら誤りです。ゴキブリ同様に鳥獣が闊歩する事態を招き、必ず後悔することになります。繰り返しになりますが、「三本柱」は必ず① 生息環境管理 → ② 侵入防止 → ③ 捕獲の順で実践しなければなりません。 (T O)

☆参考資料・文献

- ・NHK スペシャル いざ、”世界”と出会うダイナミック体験を。獣害を転じて福となす ～雅(まさ)ねえと中国山地の物語～ (<https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLPM3/blog/b1/pneAjJR3gn/bp/p4Aw0Q2nd1/>). 2022年7月8日参照
- ・江口祐輔. イノシシから田畑を守る—おもしろ生態とかしこい防ぎ方—. 農山漁村文化協会. 2003
- ・井上雅央. これならできる獣害対策. 農山漁村文化協会. 2008
- ・野生鳥獣被害防止マニュアル企画編集委員会. 野生鳥獣被害防止マニュアル—総合対策編—. 平成30年度鳥獣被害対策基盤支援事業 地域リーダー育成研修 (集落). 2018
- ・森茂之ら. 水稻ヒコバエの生育と野生獣による採食の実態およびその生育量を減らす営農管理技術. 滋賀県農業技術振興センター研究報告第50号. 2011

